

令和7年度 委託業務成果報告書

岩手県 大槌町教育委員会

【報告内容】

1. 委託業務概要
2. 委託業務の実施日程
3. 委託業務の実績の詳細
 - (1) 本業務を実施する前の現状及び課題
 - (2) 本業務を通じて達成すべき目標
 - (3) 本業務の具体的な実施内容
 - (4) 本業務の実施に伴う成果
 - (5) 本事業実施後の方向性、新たな課題

1. 委託業務概要

町長部局と教育委員会が連携・協働し大槌町が抱える課題について「総合教育会議」を要に、専門家からの意見をいただきながら、町民総がかりで確実な課題解決を目指す。

2. 委託業務の実施日程

月	実施内容	備考
4	○特別支援担当者研修会 （発達の特徴と支援のあり方、個別の支援・指導計画の作成） ○こころのサポートコーディネーター研修会	※委託業務開始前から実施
5	○架け橋カリキュラム開発会議①	
6	○第1回総合教育会議 ○子供支援連絡協議会 ○大槌の教育推進協議会 ○読み・書き・LDに係る研修会（LD傾向の幼児・児童に対する支援のあり方）	全体計画・共有
7	○大槌町小中一貫教育・コミュニティ・スクール推進状況アンケート（教員対象） ○大槌町学習・生活アンケート（児童・生徒対象） ○架け橋プログラム事業（学園の教員による保育体験）	評価・検証
7～10	○架け橋プログラム事業（幼保こども園職員と学園職員のワークショップ）	
8	○先進地視察（東京都：指導と評価大学講座）	
9	○先進地視察（神奈川県：横浜国立大学附属横浜小学校）	
10	○先進地視察（福島県・岩手県：個別最適な学及び一貫校教育先進校） ○第2回総合教育会議	経過報告

2. 委託業務の実施日程

月	実施内容	備考
12	<ul style="list-style-type: none"> ○大槌町小中一貫教育・コミュニティ・スクール推進状況アンケート(教員対象) ○大槌町学習・生活アンケート(児童・生徒対象) 	評価・検証
1	<ul style="list-style-type: none"> ○大槌の教育推進協議会 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○先進地視察(東京都：筑波大学附属小学校) ○第3回総合教育会議 ○架け橋カリキュラム開発会議② 	まとめ
3	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の事業のまとめと来年度の計画 	
随時	<ul style="list-style-type: none"> ○心理検査の実施及びアセスメント ○各学園ケース会議 ○健康福祉課によるケース会議 ○けやきケース会議(けやきルーム新規利用者について) 	
定期	<ul style="list-style-type: none"> ○要保護児童対策地域協議会 ○支援者定例会(不登校児童生徒についての今後の見通し) ○けやき個別支援会議(けやきルーム利用者についての今後の見通し) ○読み書きに関するリモート支援 	

3. 委託業務の実績の詳細

(1) 本業務を実施する前の現状及び課題

本町では、「大槌町子供の学び基本条例」及び「大槌町教育大綱」(みんなでつくる“教育の町「おおつち」”宣言(平成30年3月公示))を掲げ、0歳から18歳までの大槌型一貫教育を推進している。

令和2年度以降、**不登校及び不登校傾向となっている児童・生徒は急激に増加**。背景として、コロナウイルス感染症の拡大や、家庭環境が原因と考えられる児童生徒の他に、**発達に特性を持っていると思われる児童生徒が不登校になっているのではないかと推測**(令和4年度不登校児童生徒数33人のうち、何らかの特性が一つの要因と考えられる児童生徒数は10人で、全体の30.3%を占める)され、**令和5年度より「けやき共育」(大槌型特別ニーズ教育)を立ち上げるに至った**。

※「けやき共育」とは、大槌町の0歳から18歳までのすべての子供たちを対象に、特別ニーズ教育の視点で支援することで、「目指す子供の姿(自立・協働・創造)」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指すものである。

【大槌町の現状】

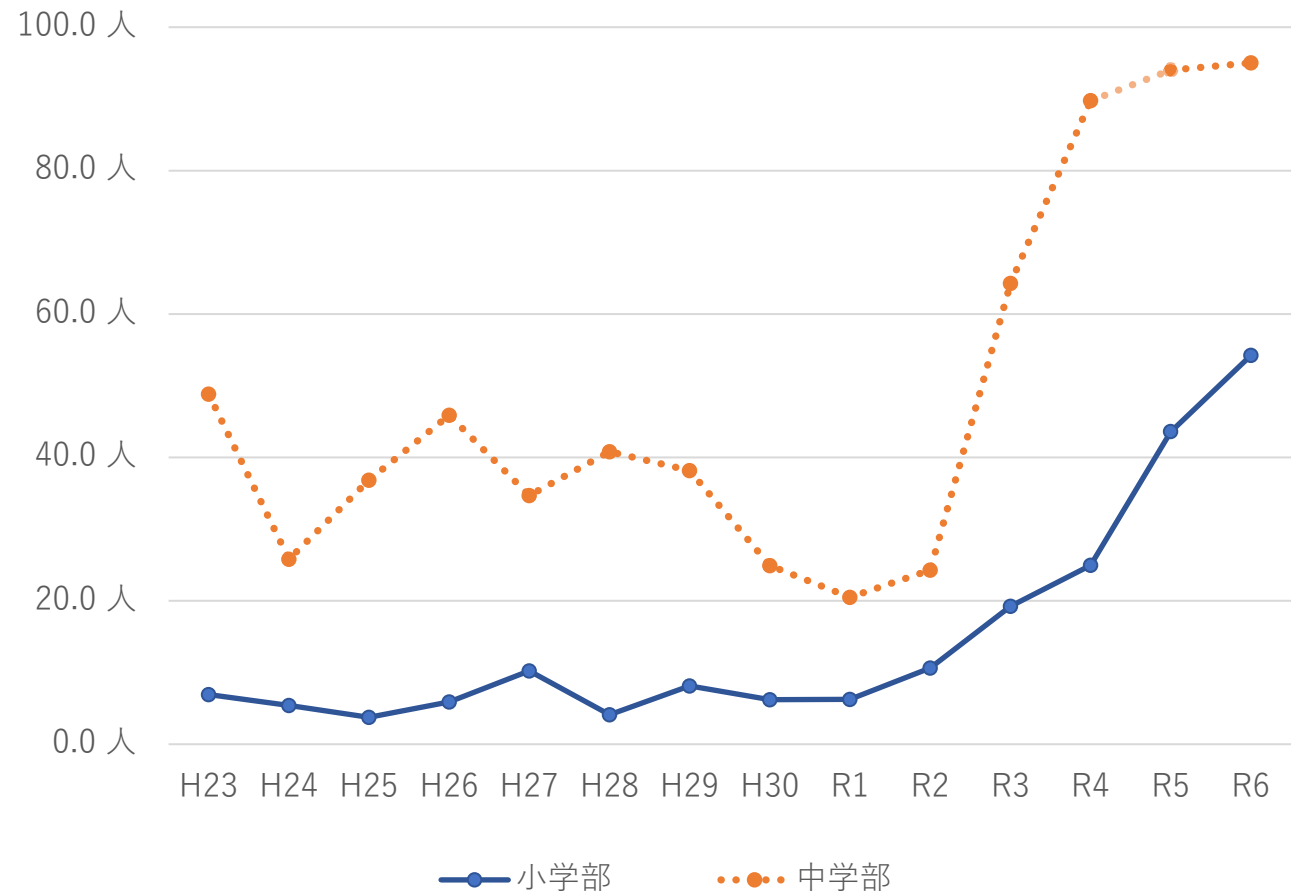
- 不登校(傾向)児童生徒の急激な増加
- 発達の特性を併せ持った(疑いも含む)、個別の支援を必要とする児童生徒の増加

3. 委託業務の実績の詳細

(1) 本業務を実施する前の現状及び課題

・大槌町不登校児童・生徒出現率の推移(30日以上の欠席)

	小学部			中学部		
	不登校児童生徒数	児童数 *3月時点	出現率 ※1000人あたり	不登校児童生徒数	生徒数 *3月時点	出現率 ※1000人あたり
H23	4	576	6.9人	19	389	48.8人
H24	3	556	5.4人	9	349	25.8人
H25	2	533	3.8人	13	353	36.8人
H26	3	507	5.9人	15	327	45.9人
H27	5	488	10.2人	11	317	34.7人
H28	2	487	4.1人	12	294	40.8人
H29	4	491	8.1人	10	262	38.2人
H30	3	484	6.2人	6	241	24.9人
R1	3	481	6.2人	5	244	20.5人
R2	5	470	10.6人	6	247	24.3人
R3	9	468	19.2人	16	249	64.3人
R4	12	481	24.9人	21	234	89.7人
R5	20	459	43.6人	22	234	94.0人
R6	25	461	54.2人	21	221	95.0人
	岩手 (R5)		15.8人	岩手 (R5)		55.1人
	全国 (R5)		21.4人	全国 (R5)		67.1人



3. 委託業務の実績の詳細

(1) 本業務を実施する前の現状及び課題



現状における本町の教育課題は次の4点 ※【 】は主に連携する町長部局

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

【協働地域づくり推進課】

- 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備
- 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【産業振興課】

【健康福祉課】

イ 新たな学びへの取り組み

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

3. 委託業務の実績の詳細

(2) 本業務を通じて達成すべき目標

本町の教育課題に対する取組として、令和5年度より立ち上げた「けやき共育」の充実を図る。また、新たに本事業の重点となる視点を加え令和7年度は取り組んできた。**※下線部が今年度の重点。**

「けやき共育」の達成目標

- ・ 「けやき共育」(大槌型特別ニーズ教育)の支援体制の構築
- ・ 「誰一人取り残さない学びの保障」の実現

本事業を通じて達成すべき最上位目標

特別ニーズ教育の視点で子供たちの支援及び新たな学びへの取組、子供の意欲を高める教育を行うことで

- 1 新規の不登校児童生徒を未然に防ぐことができる。**※ウェルビーイングの実現**
- 2 不登校児童生徒へ適切な支援ができる。
- 3 学ぶことが楽しいと思う児童生徒が増える。

3. 委託業務の実績の詳細

(2) 本業務を通じて達成すべき目標

本町の教育課題に対する取組として、令和5年度より立ち上げた「けやき共育」の充実を図る。また、新たに本事業の重点となる視点を加え令和7年度は取り組んできた。**※下線部が今年度の重点。**

上位目標

- 町民の不登校に対する理解を深め、地域の支援体制を構築できている。
- 未就学児童への支援が充実している。
- 児童生徒一人ひとりに居場所があり、個に応じた適切な支援ができている。
- 保育園、幼稚園、こども園、小中高等学校の教員が、子供を主語にして特別ニーズ教育の視点で、子どもたちを支援することができている。
- 教育関係者が学ぶ機会が充実し、自身の実践に生かしている。
- 大槌町の子供の学びの連続性に沿ったカリキュラムを開発し実施している。
- 吉里吉里学園の施設一体化に向けた方針・計画が策定される。

「けやき共育」推進相談チーム

教育委員会、各学園、教育支援機関、首長部局、地域、児童精神科医で構成

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

4つの課題に沿った実施内容の紹介

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

- 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備
- 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

イ 新たな学びへの取り組み

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

令和6年度から継続していること

学習支援、体験学習、相談会、保護者会、自己表現ワーク、美術教室 etc...



新たな課題

- ・ 利用者の増加
- ・ 子どもの多様なニーズへの対応
- ・ 支援が必要とされる子どもへの周知から参加までのアプローチ
- ・ 関係機関とのチーム作り



3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎ 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

【産業振興課】

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

① けやきスタッフの増加（2人→4人）

新規

- ・ 移住定住支援員制度の活用
（協働地域づくり推進課所管）
- ・ 地域おこし協力隊制度の活用
（産業振興課所管）



3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎ 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

① けやきスタッフの増加（2人→4人）

新規

- 大槌町地域おこし協力隊の活動報告会にて
けやき共育の成果や課題を報告



大槌町地域おこし協力隊

活動報告会

2026年2月19日[木] 18:00~19:30
会場：大槌町文化交流センター おしゃっち(多目的ホール)
参加費：無料

- 登壇者 -

小倉 健一智	NPO法人おおつちのあそび
臺 隆裕	大槌町観光交流協会
村田 輝大	大槌町教育委員会
畑 昂	大槌町産業振興課
アリー	社会福祉法人 堤福祉会

主催・お問い合わせ：大槌町地域おこし協力隊事務局(一般社団法人おらが大槌夢広場)
担当：神谷・平松 連絡先：mioinusa@gmail.com

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

②周知方法・範囲の拡大

新規

・note や月間けやき通信、公式LINEの活用

けやき

もっと教えて！けやきルームのこと！

どんなふうに使っているの？

9時から15時までなどの時間にも利用していいよ。例えば朝の1時間だけでもいいし、週に1回でも回数でもOK！来たときに懸だけていていいんだ。学校と並行しての利用もできるよ！

どんなことをしているの？

学習したい子は、ドリルやタブレットなどを用いて、けやきルームのスタッフと一緒に勉強するよ！学校と連携しているから、希望すれば定期テストをやることだってできるんだ！体を動かしたい子は、卓球をしたり近くのグラウンドに出かけたりするよ！絵を描いたり、工作をしたり、スタッフとおしゃべりしたりなど体質に合わせてやりたいことができるよ！

学校への報告は？

利用したら、けやきルームのスタッフが、そのつと、所属している学校に報告してくれるんだ。その報告で、出席になるよ！

体験活動って？

月に2回くらい、教員OBによる算数教室や英語教室があるよ。地域の人の協力で、バドミントン教室や美術教室、フリスビー教室もあるんだ。スクールバスで、ツツリ体験なんにも出かけるよ！もちろん、希望制だから自分のやりたいことを選んでやるんだ！

ほかに人に会いにくいなあ

OLAIには、学習室が2部屋とホールがあるんだ。廊下を仕切ることもできるから、顔を合わせることはいよいよ！スタッフが向いて、近くの行きやすい場所を利用することもできるよ！

問い合わせ

大塚町子ども教育センター「OLAI」内 けやきルーム
〒028-1131 岩手県上閉伊郡大塚町大塚第23地割 25-25
Tel 0193-42-4232

けやき通信

ふるさと科と体験学習！

10月のカレンダー

けやきルームの体験学習

学校以外でも学習できる場所「けやきルーム」だから、けやきルームでも学校と同じように「ふるさと科」を学習できるようにしています。それが体験学習です。学校と同じプログラムではないけれど、利用している子どもたちに必要なこと何かが考え、いろいろな人とのつながりを大切にした体験学習になっています。自分だけのことを進んで参加できるようにしています。

けやきルームを呼びだして！

その1 ツークライミング
石巻市立若菜台で、専門家のアドバイザーのもと、木にぶら下がって、古里古里の海を眺めます。大塚町立若菜台で実施。

その2 砂金探り体験
岩手県立山田として開発された金沢山、岩山のふちのお話を聞きながら、砂金探りにチャレンジです。大塚町の人と歴史と自然と触れ合えます。

定期的に美術教室や運動遊び、表現遊びなど
毎月1〜2回程度は、1学期に1、2回定期的に行っています。種々の材料に触れたり、体を動かしたりします。活動を通して、心と体がリラックスすることができます。また、毎週、**夢の教室と英語教室**も開催して、主に福原中塚町の学習支援を行っています。

けやき共育

卓球教室

10月のカレンダー

けやき共育

現役高校生からリアルな高校生活

プログラム

第1部…現役高校生から
宮古高校 定時制
宮古高校 通制
釜石高校 定時制
大塚高校 全日制
[学校3選から1つについて]

第2部…意見交換

子ども食堂

一緒に食べよう！
2学期の予定日
9月：3日、17日
10月：1日、15日、29日
11月：12日、26日
12月：10日
時間：朝7時20分〜8時
※先着順！先着10名まで
予約はLINEから！

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎ 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

②周知方法・範囲の拡大

新規

- ・ 不登校を経験した現役高校生による高校生活説明会の案内を、学園と連携し、けやきルーム利用者に限らず大槌町内9年生(中学校3年生)の全家庭に配布



けやきから聞く
『現役高校生のリアルな高校生活』

○場所:大槌町こども教育センター
OLAI(大槌交番前)

○日時:2025年11月1日(土)
14時00分

○対象:中学部生徒・保護者、関心のある方

プログラム

第1部・・・現役高校生から
宮古高校 定時制
宮古高校 通信制
釜石高校 定時制
大槌高校 全日制
(学校生活etc...について)

第2部・・・意見交換

○申込:10月29日(水)まで
QRコードまたは、お問合せ先まで



勉強は、大変？
通えるコツは？



問い合わせ:大槌町教育委員会「けやき共育担当」:0193-42-6100

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

③ 関係機関とのチーム作りの強化

新規

・ 令和6年度から継続している最大の強み

月に一度の支援者定例会(教育委員会主催)に
健康福祉課と児童相談所が参加
→ 教育と福祉の両面からの支援体制の構築

+ 学園との連携を強化

- ・ 校内コーディネーターの配置
- ・ 学園の教育相談情報交換会にけやきスタッフが参加する体制を整備
- ・ けやきルームの新規利用者について、けやきスタッフ、学園、教育委員会によるケース会議を新設

けやきケースシート

令和__年__月__日() 回目

年__組 氏名 _____
(担任: _____)

・ 支援チームを確認
・ 状況と目標を共有
・ 支援内容と役割分担の具体を相談

自立

アセスメント (現在の状況)

【本人】 人月 BOX	【家庭】 人月 BOX
----------------	----------------

【長期目標】
人月 BOX

期日目標
人月 BOX

【短期目標】
人月 BOX

期日目標
人月 BOX

支援内容と役割分担

【学園】 人月 BOX	【けやきルーム】 人月 BOX
----------------	--------------------

出欠連絡、出欠の扱い、配布物、提出物、家庭連絡、授業進度、定期テスト etc...

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

新規の取り組みによる効果

① けやきスタッフの増加（2人→4人）

- ・ 子どもの多様なニーズへの対応が可能となった
- ・ アウトリーチ型の支援が可能となった

② 周知方法・範囲の拡大

- ・ 支援が必要とされる子どもへの周知方法が拡大された
- ・ けやきルームの様子や取り組みをより多くの方々へ知らせることができた

③ 関係機関とのチーム作りの強化

- ・ 支援の方向性を関係機関でより具体的に共有できるようになった

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

◎「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

(3) 本業務の具体的な実施内容

R7年度「けやき共育」実績

	事業	対象	実施回数	実績（人）	【参考】R6年度実績
1	けやきルーム (教育支援センター)	長欠の小・中学生（登録制）	授業日の開設	のべ 1学期：132 2学期：404 実数 1学期：15 2学期：20	のべ 1学期：111 2学期：191 実数 1学期：8 2学期：10
2	けやき相談会	長欠の小・中・高生	1学期：4回 2学期：3回	のべ 1学期：24 2学期：16	のべ 1学期：8 2学期：15
3	けやき保護者会	長欠児童生徒の 保護者	1学期：1回 2学期：1回	のべ 1学期：16 2学期：12	のべ 1学期：5 2学期：7
4	全員面談	吉里吉里学園全員、 大槌学園学年7年生	実施中	各学園実施中	各学園実施済
5	転校生家庭訪問・面談	転校生	随時	1家庭	1家庭
6	16歳からのけやき共室	登録した高校生	平日	のべ 1学期：90 2学期：70 実数 1学期：8 2学期：8	のべ 1学期：50 2学期：74 実数 1学期：7 2学期：6
7	けやき子ども食堂	大槌学園小・中学生	1学期：6回	のべ 1学期：111 2学期：240	のべ 1学期：59 2学期：114

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

【産業振興課】

不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

成果として考えられること

- ・子どもの多様なニーズに対応するための支援体制が構築されてきている。併せて、周知方法の工夫やケース会議の実施、学園の情報交換会への参加など、支援を充実させるための手立てを講じることができた。
- ・昨年度より、個々に対しきめ細やかに対応することができている。また、孤立化(他者との関りが一切ない)を防ぐことができている。
- ・特性のある幼児児童生徒への適切な支援について具体的なイメージを持つことができた。また、教員間連携の必要性を共有することができた。

今後へ向けて

- ・好事例の共有や、ケース会議の内容の充実を通して学園教職員や保護者へけやき共育をさらに浸透させる。
- ・学級経営や学園内支援体制構築に係って伴走支援を行う。
- ・学園、健康福祉課と連携しながら家庭支援を継続して行う。

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

○ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

特別支援担当者研修会

R7.4.18

- ・ 講師 特別支援教育エリアコーディネーター
(県立気仙光陵支援学校教諭)
- ・ 参加者 町立各学園特別支援学級担任及び
町内幼・保・こ園保育教諭
(計16名参加)
- ・ 内容
 - ① 講義 「特性のある幼児児童生徒への適切な支援と教員間の連携について」
 - ② 演習 特別な教育課程及び個別の指導計画の作成について



3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

○ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

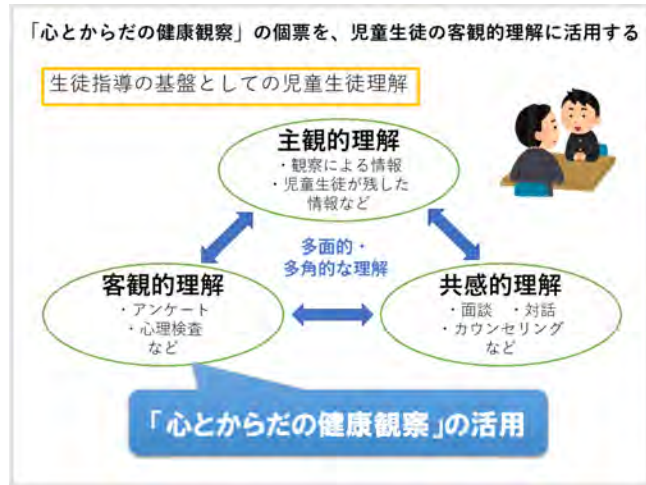
○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

(3) 本業務の具体的な実施内容

こころのサポートコーディネーター研修会

R7.4.22

- ・ 参加者 町立各学園こころのサポートコーディネーター及び生徒指導主事
大槌高校生徒指導主事、沿岸南部教育事務所エリア型SC
町こども家庭センター社会福祉士 (計11名)
- ・ 内容 ① 心とからだの健康観察について
② こころのサポート校内研について
③ こころの授業（ふるさと科）について



心とからだの健康観察
こころのサポート授業
個別面談



岩手県全域
年1回
数種の授業から選択

大槌町
ふるさと科「こころの授業」

大槌町
年3回
9年間の継続したプログラム

3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

○ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

【産業振興課】

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

読み・書き、LD等に係る研修会

R7.6.9

- ・ 講師 小池 敏英 先生
(尚絅学院大学 特任教授)
- ・ 参加者 大槌町立各学園教職員
町内幼・保・こども園教員
子供支援団体 (計22名参加)
- ・ 内容
 - ① LD児童の特性や学習支援の在り方についての講義
 - ② 今後の各学園や園での支援の在り方についての質疑応答



3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

○ 「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

○ 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【産業振興課】

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

読み書きに関するリモート支援

- ・ 児童生徒

大槌学園 2名

吉里吉里学園小学部 2名

- ・ 内容

尚絅学院大小池敏英教授の研究室の学生と、対象児童生徒とをリモートで繋ぎ、読み書きに関する支援を行う。

週1回30分で実施。



3. 委託業務の実績の詳細

【協働地域づくり推進課】

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

○「けやき共有」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備

【産業振興課】

不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【健康福祉課】

(3) 本業務の具体的な実施内容

対応する教員、担任から

S児童 担任

- 音読に確実な変化が見られました。担任としてとても驚いています。
- 当該学年レベルまではいかずとも、力が大きく伸びているところです。
- 本人も「前より読めるようになった」と、手応えを感じているようです。
- 本人はこれからも頑張っていきたい、という思いをもっています。保護者も継続を希望しています。

K生徒（別室登校）担当教員

- リモート学習があるから学校に来なきゃ。」と話したり、テスト前に学習に取り組むことができたりと学習に対する意識の変化が見られた。
- 指導が分かりやすかったとも話していた。レベルが上がってきて刺激にもなっているようだ。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

4つの課題に沿った実施内容の紹介

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

- 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備
- 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

イ 新たな学びへの取り組み

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

イ 新たな学びへの取り組み

第67回指導と評価大学講座 R7.8.6~7

場所

日本教育会館 一ツ橋ホール3階

視察のねらい

教育現場の多くの課題に対する対応の仕方を理論的に学ぶ機会を設けることにより、教員の教師力や学級経営力の向上を図る。

視察内容

教師の指導力、特別ニーズ、不登校支援等、各種専門の教授による7つの講義に参加。

参加者

大槌学園教諭1名
吉里吉里学園教諭1名
指導主事1名

テーマ	講師
教師力を高める	明治大学教授 諸富 祥彦
「現実」の学力を問う:標準学力検査の重要性と活用法	東北大学教授 宮本 友弘
不登校の認知行動論的理解と支援および未然防止策	新潟大学教授 神村 栄一
チーム援助による子どものニーズに応じた特別支援教育	前東京成徳大学教授 田村節子
協働的な学びを支える学級集団づくり	早稲田大学教授 河村 茂雄
生成AI時代のことばの力、考える力をどう育むか	東京家政大学教授 平山祐一郎
非認知能力と自律的な学習者の育成	一般財団法人 応用教育研究所 理事長筑波大学名誉教授 櫻井 茂男

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

イ 新たな学びへの取り組み

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 R7.9.25

視察のねらい

研究体制や研究推進の在り方、自律的に学ぶ子供たちを育成するためにどのような指導を行っているかを学ぶ。

視察内容

- ・授業参観及び校内研究会への参加
- ・慶応義塾大学 鹿毛雅治教授の講話

参加者

- ・大槌学園教諭2名 指導主事1名



横浜国立大学教育学部附属横浜小学校HPより引用

3. 委託業務の実績の詳細

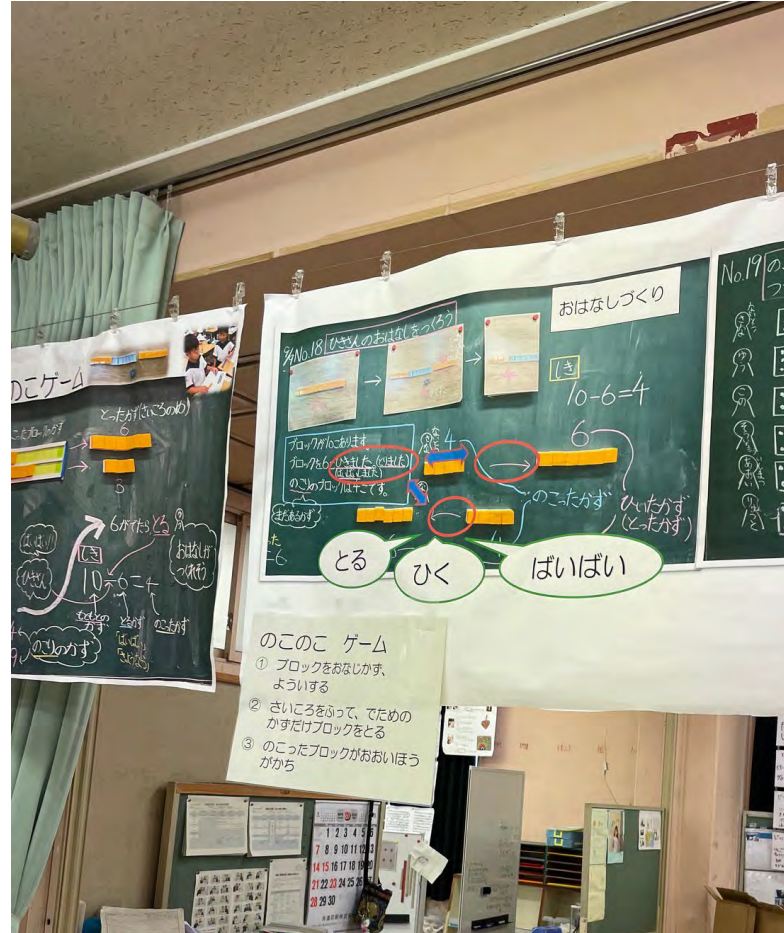
(3) 本業務の具体的な実施内容

イ 新たな学びへの取り組み

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 R7.9.25



5年生図工 造形遊び 風を感じて



低学年教室 板書の掲示



学年掲示版 係ごとの連絡

3. 委託業務の実績の詳細

イ 新たな学びへの取り組み

(3) 本業務の具体的な実施内容

個別最適な学び及び一貫教育先進校視察

R7. 10. 28～29

視察先 大熊町立学び舎ゆめの森
岩手県立一関第一高等学校附属中学校

参加者 大槌学園前期課程 教諭 大槌学園後期課程 教諭
吉里吉里小学校 副校長 吉里吉里小学校 P T A 会長
吉里吉里中学校 教諭 幼保連携型認定こども園つつみこども園 園長
大槌町教育委員会 教育委員 大槌町教育委員会 学務課長
大槌町教育委員会 S S W 大槌町教育委員会 指導主事 (計10名)

内 容

- 学び舎ゆめの森
 - ①取組紹介
 - ②校舎視察・授業参観
 - ③質疑応答・意見交換
- 一関一高附属中
 - ①公開授業
 - ②教科分科会



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

イ 新たな学びへの取り組み

筑波大学附属小学校 R7.2.14~15

視察のねらい

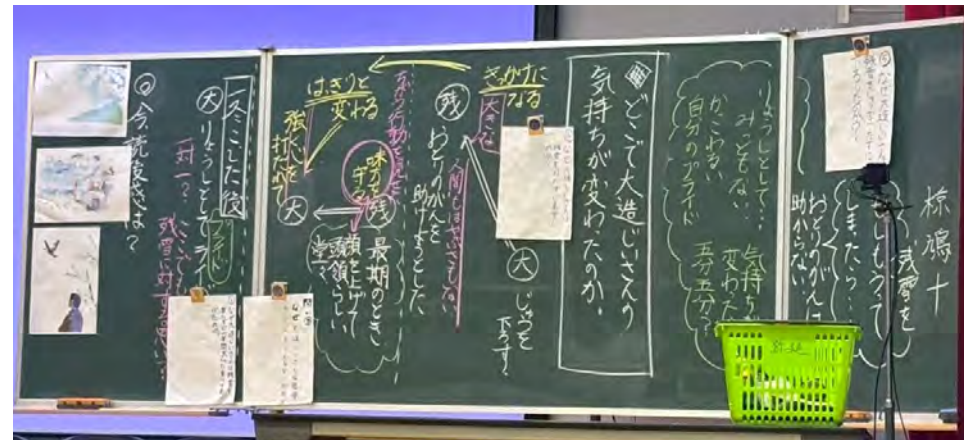
学びの本質に立ち返り、生きた授業づくりについての研究を推進している学校を視察し、各学園での研究推進の充実を図る。

視察内容

- ・学習公開・初等教育研修会に参加

参加者

- 大槌学園前期課程教諭1名
- 吉里吉里小学校教諭1名
- 指導主事1名



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

イ 新たな学びへの取り組み

「大槌の教育」推進協議会全体研修会

R7.6.26 R8.1.29

目的 大槌町の教育活動の一層の充実を図るために教員の実践発表と教育に関する講演を行い、大槌町の教職員の実践力・指導力の向上を図る。

参加者 町内各学園の教職員（悉皆）
大槌高校教職員（希望）
幼保子ども園等（希望）

内容

- ①視察報告
- ②実践発表

③講演 第1回(R7.6.26)

「子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る」

講師 慶應義塾大学教授 鹿毛 雅治 先生

第2回(R8.1.29)

「学びに向かう学級集団作りと教師の学び方」

講師 大妻女子大学教授 澤井 陽介 先生



3. 委託業務の実績の詳細

イ 新たな学びへの取り組み

(3) 本業務の具体的な実施内容

研修を通して学んだこと

- ・ 問いを持つことや選択をすることなど、学ぶ意義を感じさせる場面設定が大切であり、それこそが主体性の根幹を成すということ。
- ・ 流行りのように様々な学習形態が提示されるが、その先にある子供の変容や、どのような力が身に付いたかをよく見なければならぬこと。
- ・ 学びの土台として学級経営があり、心理的安全性が確保されてはじめて良い授業が成立し、深い学びへとつながること。

今後へ向けて

- ・ 視察の成果発表や講演を通して共有できたことを、授業を作る視点、授業を参観する視点として持ち、各学園の研究推進の充実を図る。
- ・ 授業作り等、指導主事も関わりながら主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っていく。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

4つの課題に沿った実施内容の紹介

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

- 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備
- 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

イ 新たな学びへの取り組み

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

架け橋カリキュラム開発会議① R7.5.9

- ・参加者 大槌町立各学園教職員
町内幼・保・こども園教員
こども家庭センター職員
(計25名参加)
- ・内容
 - ①講義
「資質・能力をつなぐ架け橋期の
カリキュラム作成へ向けて」
講師 いわて幼児教育センター
瀬谷圭太主任指導主事
 - ②事業計画についての確認及び協議



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

保育体験 R7.7.29

・ねらい

保育体験を通して、幼児一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性に配慮した指導の在り方について考えることや、幼保こども園、学校種を越えて先生方が気軽に話し合える関係を構築すること。

- ・参加者 大槌町立各学園教職員
こども家庭センター職員（計15名参加）
いわて幼児教育センター職員4名

・内容

幼保こども園のカリキュラムに沿って、午前中保育体験を行う。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

保育体験 R7.7.29



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

ワークショップ ①R7.7.8 ②R7.8.29 ③R7.10.7

- ・ねらい

幼保こども園の先生方、学園の先生方が楽しみながら交流する。
保育や授業のアイディアをもてる機会とする。

- ・参加者 大槌町各幼保こども園職員（希望者）
大槌町立各学園教職員（希望者）

- ・内容

シャボン玉遊び等、保育や授業につながる題材の体験

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

ワークショップ ①R7.7.8 シャボン玉で遊ぼう！



会場 吉里吉里小学校

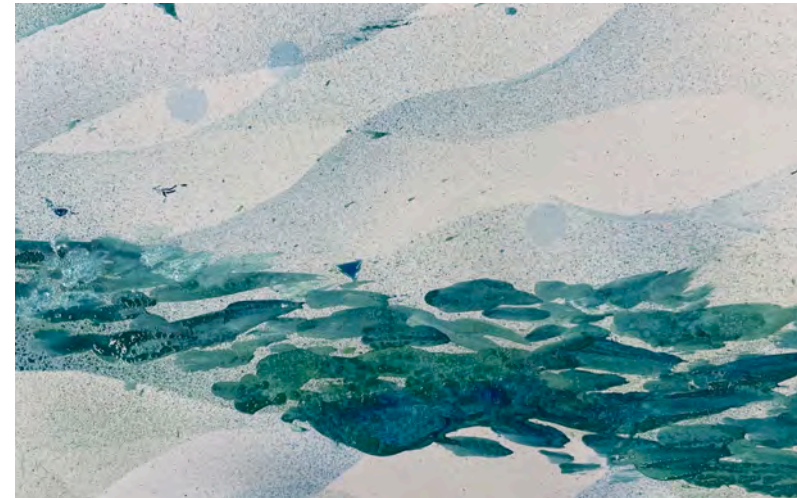
3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

ワークショップ ②R7.8.29 スパッタリングで楽しもう！



会場 大槌学園

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

ワークショップ ③R7.10.7 チョークの粉で何できる？



会場 つつみこども園

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

互見保育・授業 ①R7.11.5 ②R7.11.21 ③R7.12.17

・ねらい

子どもの実態や指導のあり方など互いの教育についての理解を深め、教育活動の改善・充実を図る。

保育・授業参観を通して、遊びへの意欲や学びへの意欲を生むような保育や授業の在り方について考える。

- ・参加者 大槌町各幼保こども園職員
大槌町立各学園教職員

- ・開催日 R7.11.5 おおつちこども園 年長
R7.11.21 大槌学園 1年生
R7.12.17 つつみこども園 年長

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

互見保育・授業

①おおつちこども園 R7.11.5



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

互見保育・授業

②大槌学園

R7.11.21



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

互見保育・授業

③ つつみこども園 R7.12.17



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

参加者アンケートから

- 今回の互見保育で感じたこと、協議で学んだことを自園の職員間で共有し合い**みんなで見直す機会にもなっています**。子供達にとってより良い環境作りについて、模索しながら出来ることから少しずつ……。短時間ではありましたが、**たくさんのかんじ、気付きを得ることが出来ました**。
- みんなで**楽しいを共有できる、そんな保育を心がけていきたい**など改めて気付かされました。
- 子ども達の意欲を大切に、質問に保育者が答えをすぐ出すのではなく、**考えさせる声掛け**をしてました。一緒に行った若い保育士も他の園を見て、感じる所・学ぶ所があったと思います。
- 学校の先生方が、保育施設の先生方の取り組みを見て、実際に学園で取り入れて**主体性を大事にしている事が授業を見て分かりました**。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

架け橋カリキュラム開発会議②

R8.2.24

- ・参加者 大槌町立各学園教職員
町内幼・保・こども園教員
こども家庭センター職員
いわて幼児教育センター職員
(28名参加)
- ・内容
 - (1) 報告・交流
 - ①令和7年度の架け橋プログラムの取組の成果と課題について
 - (2) 架け橋カリキュラム作成・来年度計画
 - ①カリキュラム作成会議
 - ②令和8年度町事業方針及び計画について



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

成果として考えられること

- ・ 講義を通して県内での取り組みの様子や幼児期の経験が就学以降の学びを支えていることを校種を越えて理解することができた。
- ・ 互見を通して、「やってみたい」という子供の心の動きを大切にした環境設定や教師の関わり方の重要性について考えることができた。
- ・ 保育体験では、それぞれの立場で大切にしていることや子供の発達について理解を深める研修会となった。
- ・ 架け橋カリキュラム作成に向け、1年間の取り組みを通じて目指す子供の姿を共有することができた。

今後へ向けて

- ・ 互見保育・授業等、ねらいを明確にしながら取り組んでいく。
- ・ 今年度の取組から架け橋カリキュラムを作成し、来年度以降も工夫改善しながら事業に取り組んでいく。
- ・ 幼児教育アドバイザー、架け橋期のコーディネーターの配置。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

4つの課題に沿った実施内容の紹介

ア 不登校（傾向）の支援体制の構築と充実

- 「けやき共育」（特別ニーズ教育）の支援体制の構築と整備
- 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援についての理解

【協働地域づくり推進課】

【産業振興課】

【健康福祉課】

イ 新たな学びへの取り組み

ウ 一貫した魅力的な教育をつくる① 幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム作成及び実施

【健康福祉課】

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

現状の整理と課題認識

- 平成24年4月～小中一貫校（施設分離型）で運営
- 児童生徒数が年々減少傾向
- 校舎は老朽化が進行し、長寿命化改修が必要な時期
- 時代に合った学習環境の整備等の改修も必要



吉里吉里学園中学部
建築年 H5年



吉里吉里学園小学部
建築年 H16年

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

施設一体化する場合の検討

○義務教育学校制度の導入

- 9年間の一貫教育
- 1人の校長が全学年を統括
- 自治体や学校ごとに学年の区切りを変更可能

期待される効果

- ▶ 中1ギャップの解消
- ▶ 教員の加配、小中教員の協働
- ▶ 9年間の系統的な教育が可能

○小規模特認校制度の導入

- 通学区域に関係なく特定の小規模校への就学を認める制度
- 少人数教育の利点を活かし、特色ある教育活動を推進

期待される効果

- ▶ 多様な学びと交流
- ▶ 地域教育資源の活用

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

地域住民懇談会の開催

日時：令和7年7月14日（月） 18:30～19:15

場所：吉里吉里分館

出席者数：23名

■参加者からの意見等

- 施設一体化にはほぼ肯定的
- 早期の環境整備と先進的な施設への期待
- 移住促進や交流活性化を狙った小規模特認校制度の活用の提案（小中版はま留学）



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

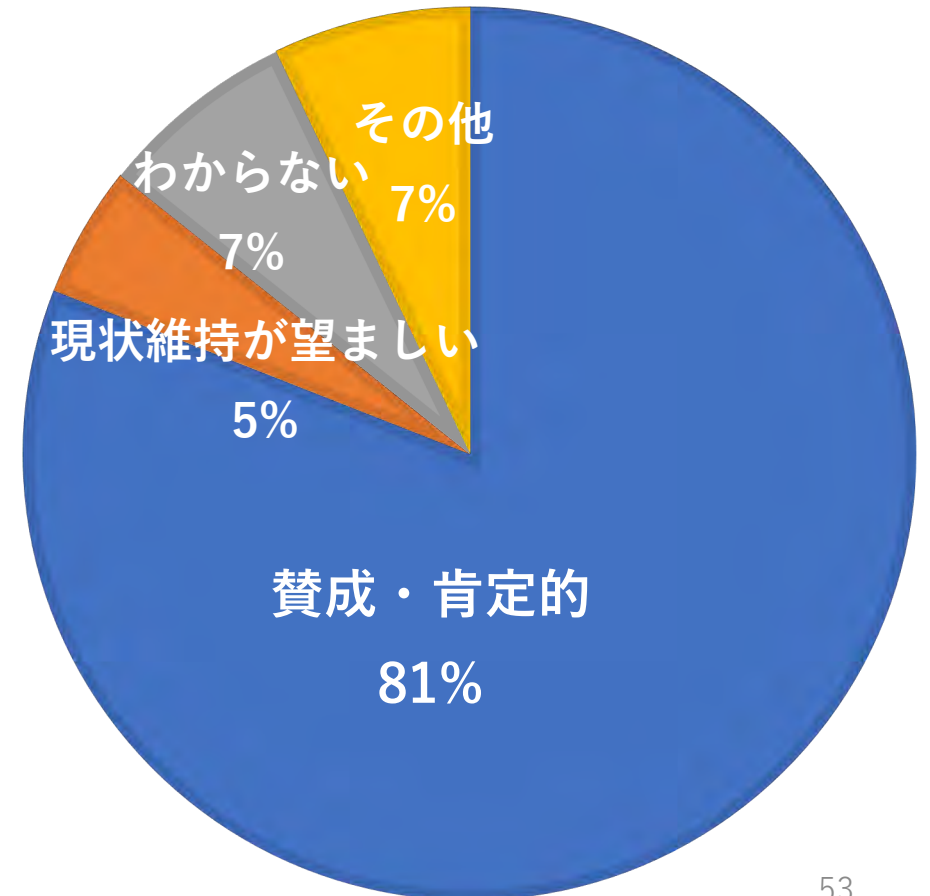
【地域整備課】

保護者アンケートの結果

- 吉里吉里学園の保護者61世帯に案内文書を郵送
- 案内文書からアンケートサイトにアクセスして回答
(回答者：42人)

集計期間：7月10日～25日
施設一体化についての意見

回答	人数
賛成・肯定的	34人
現状維持が望ましい	2人
わからない	3人
その他	3人



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

教職員からの意見

■ 小学部教職員の意見まとめ
主に施設整備の要望

■ 中学部教職員の意見まとめ
中学生が窮屈になるのではという不安がある。
そのため、施設整備に配慮してほしい。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

エ 一貫した魅力的な教育をつくる② 吉里吉里学園の施設一体化

【企画財政課】

【地域整備課】

吉里吉里学園施設整備基本方針の策定

- 1 小学部に中学部を施設一体化します。
- 2 施設一体化工事と同時に、長寿命化に係る改修工事を実施します。
- 3 施設一体化にあたり、義務教育学校及び小規模特認校制度を導入します。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

全ての手立ての要となる**総合教育会議**の開催

第1回 令和7年 8月21日(木)

第2回 令和7年10月27日(月)

第3回 令和8年 2月20日(金)

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第1回総合教育会議

R7.8.21

- ・ **内 容** 吉里吉里学園の施設一体化について、方針や検討事項、スケジュール等を説明。その後、教育委員から推進にあたっての質問やご意見をいただきました。
- ・ **構 成**

町長	副町長
教育長	教育委員
総務課	企画財政課
地域整備課	学務課



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第1回総合教育会議

R7.8.21

【議論した内容】

○吉里吉里学園の施設一体化について

- ・現状と課題について
- ・PTAからの要望について
- ・義務教育学校制度及び小規模特認校制度の導入について
- ・地域住民懇談会の結果について
- ・保護者アンケートの結果について
- ・教職員からの意見について
- ・施設整備基本計画について

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第2回総合教育会議

R7.10.27

- ・ **内 容**
 - ・ 「けやき共育」の位置づけに関する概要説明
 - ・ これまでの取組の進捗状況と今後の見通し
 - ・ 質疑・応答及び指導・助言
- ・ **構 成**

町長	副町長	教育長
教育委員	総務課	健康福祉課 学務課
- ・ **有識者**

東京学芸大学名誉教授
尚絅学園大学特任教授
小池 敏英 先生

東京大学医学部附属病院
こころの発達診療部医師
佐藤 駿一 先生

認定特定非営利活動法人カタリバ
オンライン不登校支援事業責任者代理
阿久津 游 先生



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第2回総合教育会議

R7.10.27

【議論した内容】

- 不登校（傾向）児童生徒への支援
 - ・支援体制の整備について
 - ・学園とけやきルームの役割分担について
 - ・新規の不登校児童生徒に見られる家庭環境の不安定さという共通要素における健康福祉課との密接な連携について
- 新たな学びへの取り組みに関する進捗
 - ・教育職員の専門的能力の向上について
 - ・研修を終えてからの発信や実践について
- 一貫した魅力的な教育を創出するための「幼保小をつなぐ 架け橋カリキュラム」作成及び実施
 - ・架け橋カリキュラムの開発について
 - ・教育職員の校種を超えた連携による理解度の深化について

有識者からの助言内容

- ・遠隔支援の適用対象者を、特別支援学級に限定せず、「基礎学力に不足を認める」と判断する生徒にまで拡大すること
- ・インターネットコンテンツとの接し方に関する指導、利用制限の導入について検討を試みること
- ・支援に係る情報を就学前健診等といった早期段階にて保護者へ伝達すること

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第3回総合教育会議

R8.2.20

- ・ 内 容
 - ・ 令和7年度の取組の成果と課題、来年度計画
 - ・ 質疑・応答及び指導・助言
- ・ 構 成
 - 町長 副町長 教育長
 - 教育委員 総務課 健康福祉課 学務課
- ・ 有識者
 - 東京学芸大学名誉教授
 - 尚絅学園大学特任教授
 - 小池 敏英 先生
 - 東京大学医学部附属病院
 - こころの発達診療部医師
 - 佐藤 駿一 先生
 - 認定特定非営利活動法人カタリバ
 - オンライン不登校支援事業責任者代理
 - 阿久津 游 先生



3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

第3回総合教育会議

R8.2.20

【議論した内容】

- 不登校（傾向）児童生徒への支援
 - ・支援体制の整備について
 - ・不登校となる要因の考え方について
 - ・改善事例の示し方について
 - ・生活リズムの不調の原因について
- 新たな学びへの取り組みに関する進捗
 - ・研修を終えてからの発信や実践について
- 一貫した魅力的な教育を創出するための「幼保小をつなぐ架け橋カリキュラム」作成及び実施
 - ・架け橋カリキュラムの開発について
 - ・互見保育に参加する先生方について
 - ・スマホやタブレットが発達に及ぼす影響について

有識者からの助言内容

- ・アンケート調査において、積極肯定回答にこだわらず、もっと肯定回答に着目してもよいのではないかとということ。
- ・不登校になる要因は複合的であり、そこに着目するよりは、なった後の分類やパターンに着目したほうがよいこと。
- ・リモート支援につなげる子供のアセスメントを適切に行っていく必要があること。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

評価・検証のためのアンケートの実施

第1回 令和7年 7月

第2回 令和7年12月

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

大槌町学習・生活アンケート (児童・生徒対象)

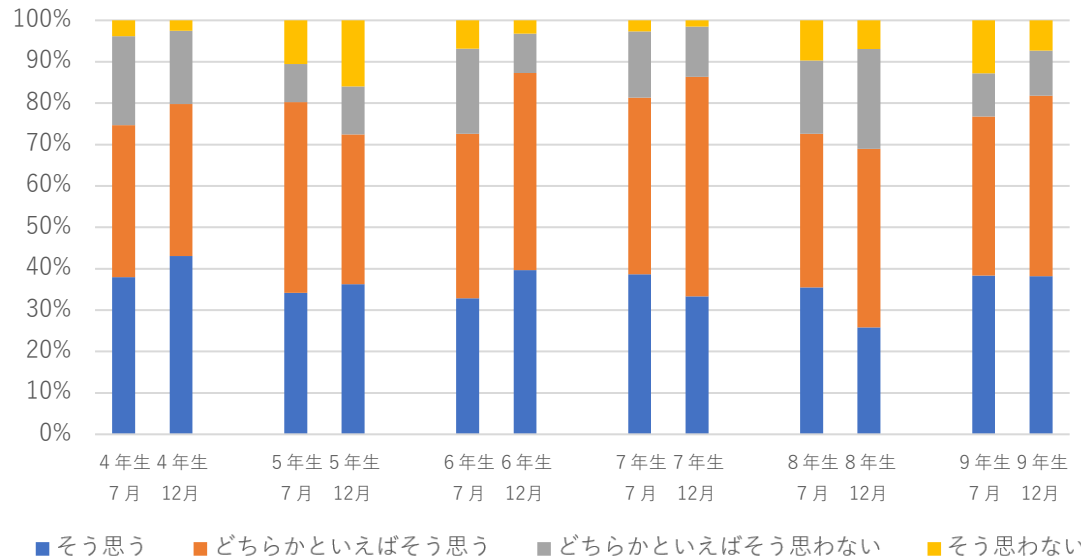
- ・ 調査対象 大槌学園及び吉里吉里学園4 学年以上の全児童生徒
- ・ 内 容 年度内の同一集団比較及び経年変化を分析し、今年度の取組の成果と課題を評価・検証する。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

【項目1】自分にはよいところがありますか。(自己受容)

<積極肯定の推移>



R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
34.7%	30.8%	38.9%	36.6%	36.4%	36.4%

【参考】令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

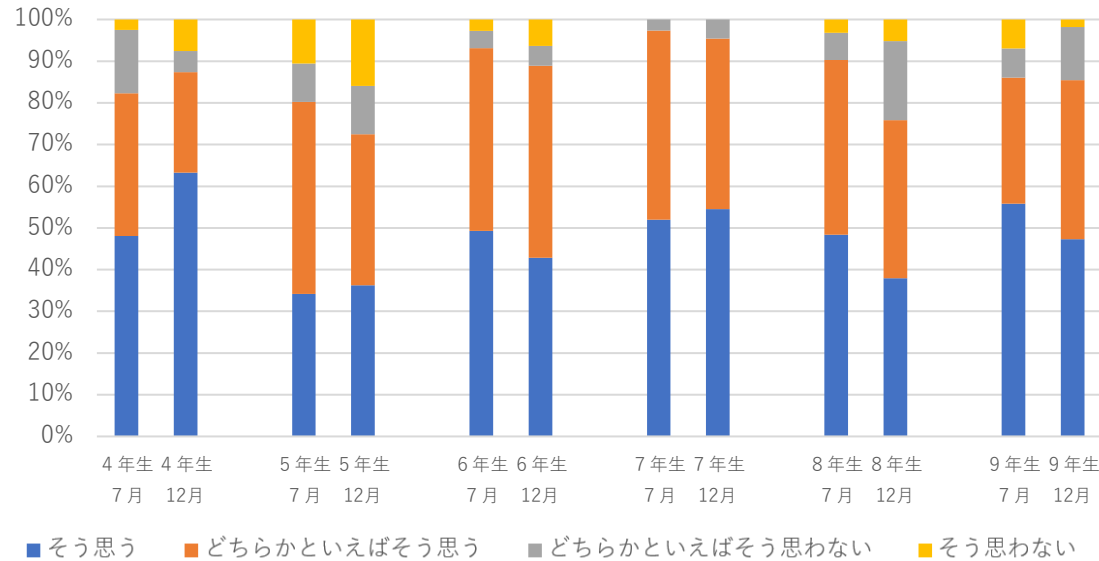
	R7岩手県	R7全国
児童(小6)	44.8%	47.3%
生徒(中3)	38.3%	40.7%

全体の3割超の児童生徒が積極的に肯定回答しているが、県、全国に比べ低い数値である。不登校(傾向)を未然に防ぐ観点から、集団内に自分の居場所見だし、自己肯定感を高めることはとても重要なことだと考えられる。学級経営及び授業改善の両面から、自己のよさを実感できる機会、活躍できる機会の意図的な設定や、個々の児童生徒のよさを認め、伝えることのできる対話場面の設定等の積極的な取り組みを推進したい。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

【項目2】 学校に行くのは楽しいと思いますか。(主観的幸福感)



<積極肯定の推移>

R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
51.6%	46.9%	54.1%	49.9%	48.1%	47.7%

【参考】令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

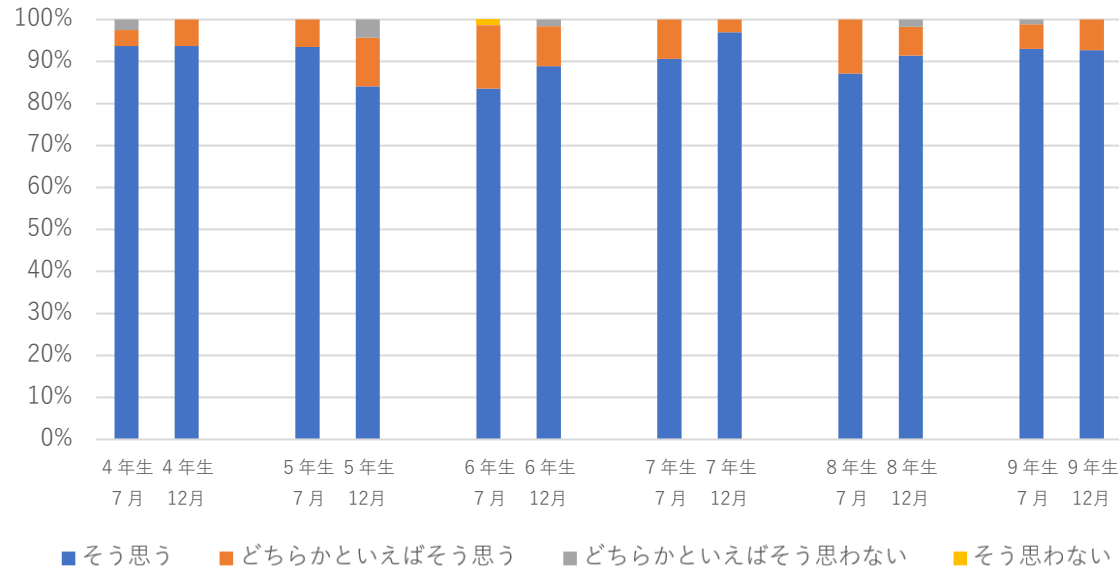
	R7岩手県	R7全国
児童(小6)	48.1%	49.9%
生徒(中3)	45.2%	45.6%

県や全国と比較すると高めに推移しており、これまでの教職員の諸活動での工夫、尽力により、多くの児童生徒が学校への登校に対して前向きな印象を有している点が示されている。これまで2回目のアンケートの方が下がる傾向が見られてきたが、今年度はあまり変化しておらず、4学年のように大幅に数値が上がった学年もある。そのような学年・学級経営や講じた手立てなど、校内でも共有したり学ぶ機会があるとよい。また、否定的回答をした児童生徒に対して、個別の相談機会の設定等を通して、本人の意向に沿った学習等の場や機会の提供に向けた支援を行うことも重要であると考えられる。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

【項目3】 いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。（尊重・道徳観）



<積極肯定の推移>

R5		R6		R7	
第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
84.3%	84.9%	89.8%	84.9%	90.5%	91.3%

【参考】 令和7年度全国学調の同質問の積極肯定結果

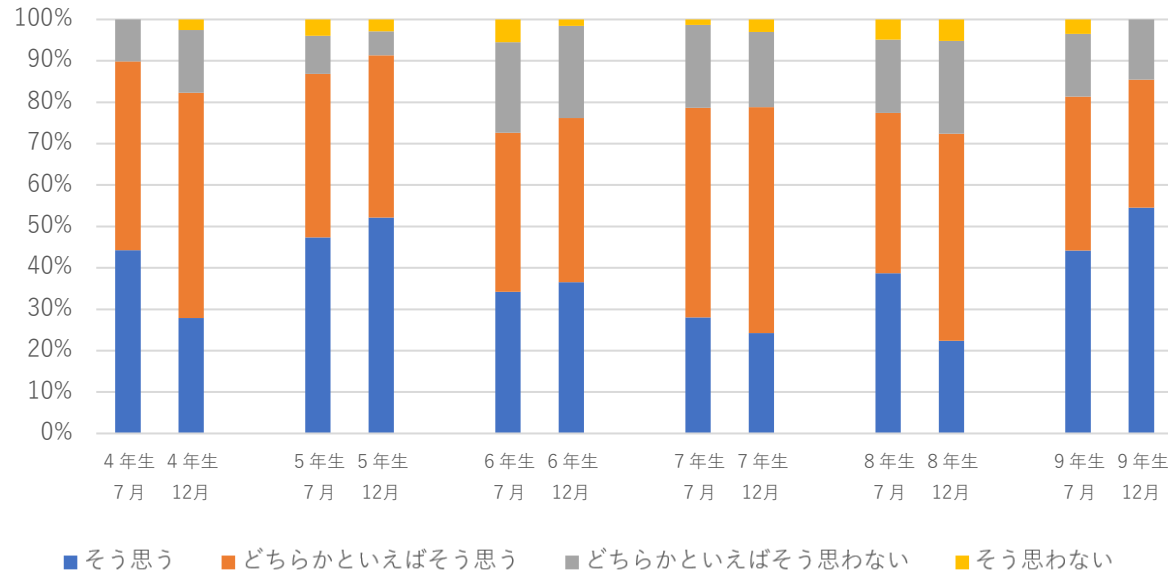
	R7岩手県	R7全国
児童(小6)	84.0%	81.4%
生徒(中3)	80.7%	77.1%

全体の9割を超える児童生徒が積極的に肯定回答し、これまでの教職員の尽力により、多くの児童生徒が他者の権利や尊厳を守ろうという認識を有している点が示されている。県、全国と比較しても高い数値である。また、今年度1月末までの町内両学園でのいじめ認知件数は5件といじめ事案の発生は少数であり、上記認識に基づいた児童生徒の望ましい行動が実践されている点が推察される。積極肯定100%を目指すべき項目であるため、プロアクティブな生徒指導を今後も展開していく必要がある。

3. 委託業務の実績の詳細

(3) 本業務の具体的な実施内容

【項目4】 まちがうことを気にせずに、授業に取り組んでいますか。（挑戦と周囲のウェルビーイング）



<積極肯定の推移>

R6 第1回	R6 第2回	R7 第1回	R7 第2回
40.2%	32.6%	39.7%	35.9%

昨年度より1回目から2回目のアンケートの落ち込みは小さかった。肯定回答で捉えると約8割の児童生徒が間違いを気にせず授業に参加できている。この項目の積極肯定の割合を上げるためには、間違ふことで学びが深まるといった体験をさせることや、間違っても大丈夫という安心感を持たせる声掛けや工夫を、様々な場面で実践していくことが大切である。いじめやかからかいのない心理的安全が確保される集団づくりも必須である。また、児童生徒は正答のみを求める心理がはたらくため、答え合わせ的な授業ではなく、資質能力の育成に根差した授業改善をさらに推進していく必要がある。

3. 委託業務の実績の詳細

(4) 本業務の実施に伴う成果

【総合教育会議を要としての成果】

※ 特に昨年度事業と今年度事業との差について

- 町長部局と連携し、けやき共育の要であるけやきルーム（校外教育支援センター）の人員を増やしたことで、多様化する子供や家庭のニーズに応えることができ、支援の厚みが増したこと。また、取組の周知や情報の発信について質・量ともに向上したこと。
- 総合教育会議の助言者でもある小池先生の指導の下、読み書きに関わるリモート支援に着手できたことで、これまでになかった支援の視点を得るとともに、新たな支援体制が構築されたこと。
- 福祉部局との連携により、町内の幼・保・こども園がすべて私立であるという環境の中でも架け橋カリキュラムの作成・実施について適切に推進できたこと。

3. 委託業務の実績の詳細

(4) 本事業実施後の方向性、新たな課題

総合教育会議での提案を受けて、今後検討していくこと

○けやき共育を軸にした、学園での日常的な運営・実践

- ・けやき共育を『特別な支援』ではなく、学園の日常を支える仕組みとしてもさらに位置づけていくこと。
- ・けやき共育を通じて、個別の支援が必要になる前の段階から子どもを支えられる学園の基盤を強化していくという視点をもつこと。
- ・学園の日常生活そのものが安心安全で、多様なニーズに応えられる場であるための取組についてもさらに推進すること。

○家庭まるごと支援の拡充

- ・多様な保護者支援の選択肢を拡充すること。
- ・教育や行政の枠を超えた家庭支援のポイントを整理・可視化することについて、より効果的な連携の枠組みを構築すること。